



# JEG ニュースレター 139号

www.jegschweiz.com

2013年12月23日発行

## 小さな証

成人式を迎えたスイスJEG。創立に関わられ、その20年の歴史を共に歩まれたクンツ・ルツ師の証です。

## 創立20周年記念礼拝

スイスJEGは、11月24日に創立20周年記念礼拝を84名の参加者とともに捧げる事ができました。

## おめでとう！

日出ずる国から出産、婚約、結婚と、この秋、三つの嬉しいお知らせが届きました。

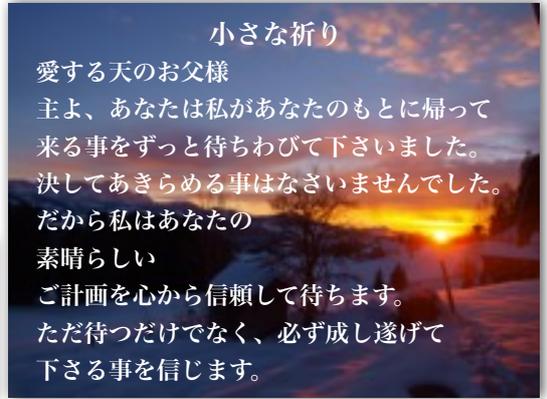
## 恵みの20年

震災で壊滅的被害を受けた気仙沼の印刷所・愛隣社で印刷されたフルカラーの記念誌は幾多の困難にもかかわらず、空路スイスに運ばれました。

## 小さな祈り

愛する天のお父様

主よ、あなたは私があなただけのもとに帰って来る事をずっと待ちわびて下さいました。決してあきらめる事はなさいませんでした。だから私はあなたの素晴らしいご計画を心から信頼して待ちます。ただ待つだけでなく、必ず成し遂げて下さる事を信じます。



すべての人を照らすそのまことの光が世に来ようとしていた。この方はもともと世におられ、世はこの方によって造られたのに、世はこの方を知らなかった。

ヨハネの福音書 1：9-10

私たちの救い主イエス・キリストのご降誕を心よりお祝い申し上げます。

スイス日本語福音キリスト教会一同



私たちの罪と咎を全身に背負い、自ら壮絶な死に赴かれ、死にて葬られ、復活された人類の救い主イエス様が粗末な馬小屋にお生まれになった、何にも代え難い誕生日を心から感謝してお祝い申し上げます。

## ちいさな証

スイスJEGの成人式に思う  
(11月24日の記念礼拝での証)

クンツ・ルツ

スイス日本語福音キリスト教会会員



Die jungen Japaner, die nächstes Jahr 20 Jahre alt werden, freuen sich jetzt schon auf das grosse Fest im Januar, das Fest der Volljährigkeit.

Heute feiert die Japanische Gemeinde Uster gewissermassen das Fest der Volljährigkeit.

In Japan ist dies immer ein Fest der Freude. Es sollte aber auch ein Fest des Dankes sein. Der Dank gebührt selbstverständlich den Eltern und Verwandten, die bis zu diesem Tag für die jungen Menschen gesorgt und über ihnen gewacht haben. Dieser Feiertag brachte mich auf den Gedanken, dass wir heute als Uster-Gemeinde auch einen solchen 20. Geburtstag feiern.

Durch den wunderbaren Plan und die Führung unseres himmlischen Vaters wurde unsere Gemeinde vor 20 Jahren ins Leben gerufen.

Als treuer und gütiger Vater hat er bis hierher über unserem Weg gewacht. Er hat uns reichlich mit geistlicher Speise ernährt und für unser Wachstum gesorgt. Wo wir als Gemeinde versagt haben oder wie ein kleines Kind gestolpert sind, hat er uns wieder aufgehoben. Darüber hinaus hat er uns 20 Jahre lang durch sein Wort auf dem richtigen Weg geleitet. Was für ein wunderbarer Vater ist er!

In diesem allem gleicht wohl ein irdischer Vater unserem Gott im Himmel, aber einen grossen Unterschied gibt es bei der Beziehung des irdischen Vaters zu seinen 20-jährigen Kindern: auf dieser Welt wird von den jungen Töchtern und Söhnen erwartet, dass sie selbständig werden und auch zurecht kommen, wenn der Vater nicht mehr da ist. Wir jedoch als Kinder Gottes oder als Gemeinde dürfen, ja müssen von unserem Vater abhängig bleiben, bis wir zu Ihm in den Himmel gehen. So lehrt es uns die Bibel.

Wenn wir heute als solche zurückblicken, die vor 20 Jahren die ersten Schritte getan haben, dann erkennen wir, dass wir Ihm nur von ganzem Herzen danken können.

Vor 20 Jahren zur Gründungsfeier der Japanischen Gemeinde hat mir Gott ein Wort geschenkt, mit diesem möchte ich schliessen:

Das Land, in das ihr hinüberzieht, um es in Besitz zu nehmen, ist ein Land mit Bergen und Tälern - vom Regen des Himmels trinkt es Wasser -, ein Land, auf das der HERR, dein Gott, Acht hat. Beständig sind die Augen des HERRN, deines Gottes, darauf gerichtet vom Anfang des Jahres bis zum Ende des Jahres.  
5. Mose 11, 11.12

来年二十歳を迎える日本の若者たちは、一月の成人式という大きなお祝いを楽しみにしています。今日、私たちはこのウスター日本語教会のいわば成人式をお祝いします。日本で成人の日は喜びの日ですが、それと共に感謝の日でもあるべきです。その日まで面倒をみ、育てて下さった両親、親戚などに感謝するのは当たり前のことでしょう。ウスター教会のこのお祝いの日に、成人式と同じ様な二十歳の誕生日に思いを馳(は)せました。

私たちの天のお父様の素晴らしいご計画と導きによって、20年前にこの教会が誕生しました。誠実で優しいお父さんとして、私達の歩みを見守って下さいました。霊的な糧を豊かに与え、成長させて下さいました。

教会として動けなくなったり、小さな子供の様につまずいたりした時には、再び起こして下さいました。また20年もの長い間、御言葉を通して正しい道へ導いて下さいました。なんと、素晴らしいお父様でしょう。

たぶんこれらのことは人間のお父さんと天の神様とはある意味では同じでしょうが、一つ大きな違いがあります。この世の父親は自分の二十歳の娘や息子にお父さんが居なくなっても、一人で生活してやっていけることを期待します。

けれども私たち神の子供、また教会は天のみ国に行く時まで神様により頼まなければなりません。その様に聖書は教えています。

この様に20年前の初めの一步を振り返る時、私達は神様に心からの感謝を捧げずにはおられません。20年前の日本語教会創立時に、神様から頂いた御言葉を申し上げて終わりたいと思います。

しかし、あなたがたが、渡って行って、所有しようとしている地は、山と谷の地であり、天の雨で潤っている。

そこはあなたの神、主が求められる地で、年の初めから年の終わりまで、あなたの神、主が、絶えずその上に目を留めておられる地である。

申命記 11:11-12





1、11月24日(日) スイス日本語福音キリスト教会は創立20周年記念礼拝を84名の参加者とともに捧げる幸いを得ました。11月1日からスイスJEGの新牧師として就任されたマイヤー牧師は「信仰の“でも”」をテーマにルカ5章1-11節から解き明かして下さいました。礼拝後、創立20周年記念誌が配布されました。

祝会では、創立時から今日まで奉仕と献金そして祈りで、スイスJEGを支えてきて下さった(元)宣教師の先生方一人一人のご挨拶があり、改めて20年を導き、大きな祝福をお与え下さった主に感謝を捧げました。祝会で上映された”写真で綴るスイスJEG20年史”はこちらでご覧頂けます。[www.youtube.com/watch?v=893wkwUe3yc](http://www.youtube.com/watch?v=893wkwUe3yc) 記念礼拝の記録ビデオ(2分版)はこちらでご覧頂けます。[www.youtube.com/watch?v=WM3h4qRyeyM](http://www.youtube.com/watch?v=WM3h4qRyeyM)

2、クリスマス伝道礼拝が12月8日(日)に今年もミラノ賛美教会・内村伸之牧師をメッセンジャーとしてお迎えし、子供も含め94名の参加者と共に持たれました。内村牧師は”**インマヌエル、神は私たちとともにおられる**”をテーマに自己の闘病生活の経験を踏まえてのメッセージ(通訳:ブラザー直美姉)をしてくださいました。また、クリスマス礼拝のなかで、オーニング・サムエル君の献児式が執り行われました。この日の説教はスイスJEGのHPでも聴いて頂けるほか、CS賛美とティーン劇を含む礼拝の様子をビデオでもご覧頂けます。[www.youtube.com/watch?](http://www.youtube.com/watch?)

3、田辺みや子先生は11月20日に緊急入院して受けられた腸閉塞手術の際、大腸に腫瘍があるのが発見され、12月11日に再開腹手術を受けられました。腫瘍は悪性であったものの全て摘出され、転移は確認されず、化学療法も必要ないとのことで、12月20日無事退院されました。二度に渡る手術で非常な体力の衰えを感じられたみや子先生ですが、日本から駆けつけられた次女宣子さん(保育士)、長女敬子さん(看護師)の看護のお陰で健康を回復されつつあります。みなさまのお祈りを田辺先生も深く感謝しておられました。

4、11月4日から7日まで、ドイツ・リーベンゼラー近くのMonbachtalゲストハウスで、第7回の教職者研修会が開催されました。始めて参加させて頂いた私にとっては、非常に貴重な経験でした。普段は自分が説教する者ですが、今回は元神戸改革派神学校、校長の牧田吉和先生の「真の靈性」についてお話を聞く、聞き手となりました。また、ヨーロッパの各地から集まってきた約30名の先生方との交わりと話し合いは、励ましと新しい力を得る時になりました。来年はルーマニアで「主の召命」をテーマに行われる研修会を楽しみにしております。この研修会を通して、ヨーロッパの各地でもたれる日本語礼拝や諸集会に、一人でも多くの日本人が導かれますように願っております。  
マイヤー・マルチン記



5、10月18日から20日まで、フランクフルト日本語福音キリスト教会の修養会が昨年に引き続き”みことばの光”編集長、矢吹博牧師(行田カペナント教会)を迎えて、南独にあるHaus Bethelにて開催されました。スイスJEGからの7名を含めた20名の参加者は、エペソ人への手紙の1章-6章を通して4回の学びの時を持ち、主は天地創造前から私たち個人個人の存在に既にかかわっておられ、それぞれに目的を与えてくださっていること、一人一人が主のかけがえの無い存在であり主の目に尊い者であることを強く教えられました。なお、矢吹牧師は、10月27日の主日には、スイスJEGにおいて「変らない神の愛」をテーマにイザヤ書の54:1-10から解き明かしてくださいました。



6、**スイスJEG創立20周年記念特別セミナー**(ドイツ語の通訳付き)は、2014年1月24日(金)~26(日)米国より岡田大輔先生を迎えて開催されます。(添付フライヤー)聖書を真摯に学びたいJEG以外のドイツ在住のクリスチャンも参加しやすいように、会場は南ドイツBad Liebenzellにいたしました。また、申し込み締め切りを1月15日に延長しましたので奮ってご参加下さい。ご質問ならびに申し込みは[workshopswiss@bluewin.ch](mailto:workshopswiss@bluewin.ch)へ。

7、次世代を担うキリスト者の為の**SLIM** Servant Leaders In Ministry Conferenceが、来年も3月27日から30日まで北イタリア・ベルガモ近郊で開催されます。申し込み受付が12月15日から始まっています。締め切りは1月16日ですので、HPからお申し込みください。[www.slimconference.org/](http://www.slimconference.org/) お問い合わせは[info@slimconference.org](mailto:info@slimconference.org)へ。

8、ウィーン日本語キリスト教会では、高木攻一牧師の後任に、後藤献一師を招聘することを10月27日の臨時総会において全会一致で採択されました。

9、オーニング宣教師、クンツ・プリスキラ宣教師、ラシェンコ・ペラ宣教師からのRundbrief、工藤篤子メルマガ199号、井野葉由美メルマガ104号、バルセロナ日本語で聖書を読む会月報、デュッセルドルフ日本語教会月報、ケルンボン教会月報、ルーマニア川井牧師の週報、イザール通信、オスローからの回覧版、オリーブ山便り(イスラエルよりの最新情報)、ウィーンの群れが届いています。お読みにになりたい方は、松林までご一報下さい。



11月24日 創立20周年記念祝会



12月8日クリスマス礼拝のスナップ

## 日出ずる国より

## 父の心に触れた神様

宮城県は利府市の  
菊地祥彦兄から

## 結婚しました

神奈川県は川崎市の  
馬場耕平兄から

### 子育て奮闘中です

東京都は東久留米市の  
シグリスト美智子姉から



スイスJEG創立20年記念誌ありがとうございます。これから、ゆっくりとみなさんの証を味わいたいと思います。

私の毎日はあっという間で、自分のことはほとんどで

きず、恵と二人の濃い時間を過ごしています。ウルスも家に帰ってきたら家事をしてくれて、ほとんど自分のことはできてないと思います。こんな生活で、結構ストレスフルですが、こんなにかわいい時期もあつという間に過ぎてしまうんだと思うと毎日が大切です。

皆様への報告がすっかり遅れてしまいました。10月27日に女の子を出産、恵(めぐみ)と名付けました。今は東京で子育て奮闘中です。

いつもと泣き方が違うと「どこか痛いんじゃないだろうか?」と思ってオロオロしたり。あまりにもスヤスヤ寝てるから、ちゃんと息をしてるか確認したり。些細なことを気にしすぎて疲れちゃったり。ずっと自分がそばで見てあげたらいいんだけど、自分も寝たいし家事もしなきゃだし。

「わぁ〜ん。°・(ノ口)°・。私には無理だよ!」って思った時に、「あ、私が寝ても神様は寝ずにこの子のこと見てくださる。っていうかこの子が生まれてくる前からこの子のことをずっと知ってくださるんだ。っていうか神様がこの子を形造って、私たちに預けてくださったんだ。この子が神様を知るように祈ってきたけど、その前に神様の方がこの子を知ってくださるんだ。」って思い出しました。子育てに関して平安が与えられるようにどうぞお祈りください!

スイスJEGのみなさんへ  
主の御名を賛美します。  
みなさんお変わりないでしょうか?

僕には一つの大きな変化がありました。実は先日、今年1月から交際していた方と婚約しました。

相手は加藤恵美さんという方で、新潟県に生まれ小さい頃から五十嵐キリスト教会にクリスチャンの両親と一緒に通っていました。恵美さんはオーストラリア人の宣教師と日本人のお父さんとの間に産まれたハーフです。震災前までは、大学時代から滞在していたオーストラリアにいましたが、震災後は震災支援のためにずっと宮城県に滞在しています。今は、宮城県南部にあるキリスト教系ボランティアセンターの専任スタッフをしています。



婚約式は、天候にも恵まれ、喜びと感謝に溢れた素晴らしい式となりました。もちろん婚約の誓約を交わすことが一番嬉しかったことですが、同時に父が僕の教会に初めて来たことも嬉しかったです。また、その父が婚約式の中で、僕の証しを聞きながら涙を流す姿を見、父の心に触れてくださった神様に感謝を捧げました。ノンクリスチャンの父は、本当は結納という形を望んでいたと思いますが、父にも心から喜んで、祝ってもらいとても感謝です。

婚約式を終え、現在は結婚に向けて準備を進めています。結婚式は2月11日に予定しています。結婚までのプロセスの上に主の導きと守りがあるようにお祈りくだされば幸いです。結婚したら、いつか二人でスイスに行きたいです!



11月9日に御茶ノ水ガーデンパレスで、ドイツ在住のハンガリー女性エリザベートさんと結婚いたしました。7年間という長い間、文通を中心とした付き合いでしたが、今秋に主がその関係を一つの実りへと結ばせてくださいました。

私が留学中通っていたコンスタンツの教会で知人と彼女の母親を通じて出会い、主を中心として関係を築いて行きました。ある時は、1か月間、私たちはあえて連絡を遮断し、神様の御心の関係か否かをそれぞれ主に聞いた時もありました。その際、主はそれぞれに聖書を通じて御言葉を与えて下さいました。



私にはイザヤ書の54:13-15が与えられました。私の心に平安が訪れて、私たちの関係が主の御心であると確信できました。

そして、エリザベートは9月に来日し、無事婚姻ビザも取れ、現在に至っています。未熟な二人ですが、これからも、主との愛の交わりを中心とした家庭になるように祈りと励ましをしていただければ幸いに存じます。これからも私たち二人のことをよろしく願い申し上げます。

スイス日本語教会のみなさんとヨーロッパ在住の皆様の主の祝福が豊かにありますように。

P.S.ちなみに右の写真は、首都大学東京でドイツ語を教えている化学・看護クラスの学生が、私の誕生日のお祝いをしてくださった模様を切り取った一枚です。

主を知らない彼らを含めた学生たちにも福音がどうにかして伝えられたら・・・といつも主に聞きながら歩む日々です。





からこそ・・・というスイスと、スイスに住まわれている皆さんの特別な素晴らしい味がにじみ出ています。あー、私もいつかスイスに行きたいです！明日は、アメリカは感謝祭です。この証集をみながら、神様に感謝したいです。本当にありがとうございました！

東南アジアはシンガポールの  
松本章宏牧師から  
シンガポールJCF牧師



今日20周年記念誌が届きました！大変な力作ですね。ご苦勞をお察しいたします。よくぞ完成させてくださいました。

主ご自身がお疲れを豊かに労ってくださいますようにお祈りいたします。

皆さんの一言一言に重みがあります。建前ではなく、本音の記念誌だなあと思いました。20年間、嬉しいことも悲しいことも、楽しいことも辛いことも、たくさんあったことがよく伝わってきます。しかし、その中に、主の恵みが貫かれていることを感謝いたします。

神様のご計画はあまりに深く私たちに理解できないことが多いですが、主は素晴らしい方であることだけは間違いありません。ガリラヤ湖の波の上で訓練された弟子たちのように、スイス教会の皆さんがさらに成長され、信仰の次の段階に進んでおられることが分かります。

そんな貴教会の1ページに私たちも加えていただけたこと、本当に光栄なことです。

心からの感謝をこめて、スイス教会のさらなる飛躍をシンガポールの地からお祈りいたします。シャローム

神奈川県は川崎市の  
大八木タビタ姉から



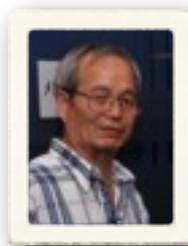
素晴らしい記念誌を心からの感謝を申し上げます。これほど充実した美しい記念誌を今まで見た

こともなく夢のようです。

私は読みながらたくさんの祝福をいただき、兄弟姉妹の証から、今まで知らなかったこともたくさん伺い、それぞれの神様との関係からいろいろ学ぶことが出来ました。本当にありがとうございます。

そして、主人も何回も手にして読みました。特に、冒頭のリトグラフィー”サンクト・ガーレン市の3本の橋”とそこに添えた文章に感動しました。父と母をこのように評価してくださり感謝いたします。

ノルウェーはオスロの  
金子進兄から  
オスローJCF代表



「神のなされることは皆その時に  
かなって美しい」 聖書より

素晴らしい記念誌を拝読させていただき、心から感謝します。表題にありますように恵みの20年でしたね。宣教師を通し、日本人牧師をとおして成長してこられたスイスJEG

のありのままの姿を見せていただきました。誰かが種をまき、誰かが水を注ぎ、神様が育ててくださった教会ですが、その背後には多くの犠牲も払われていたことと思います。記念誌を拝読して率直に感じたことは、いかに多くの愛と奉仕に支えられ、育まれてきたか、ということです。

ヨーロッパにおける邦人や現地人伝道、教会形成と運営方法についても、多くの証や経験談の中に良き道標が示されていると思います。

宣教師が言われていましたがヨーロッパでは「日本食を食べる教会」は大きな伝道用具でしょう。バイリンガルで行われる集会は国際結婚されている方々には不可決なことですし、家族で参加できることは教会発展の大きな要素です。何よりも多くの実を結んでいるスイスJEGの働きに神様に感謝です。スイスNLの奉仕も教会をさらに大きく広く発展させている要素ですね。帰国者へのつながりも強く、いろいろな関連組織と連絡をとりながら、信仰世界の広さ、深さを新鮮に味わうことができます。

教会設立20周年という節目にあたっての記念誌を心から感謝し、皆さま方の信仰にある奉仕が神様に祝福され、用いられて、これからの更なる発展を期待しています。

ドイツはダルムシュタットの  
シスター・ソハラから  
マリア姉妹会



「スイス日本語福音キリスト教会・恵みの二十年」を手になさっていただきました。途中から仲間入りさせていただいたこの小さな者も感謝でいっぱいです。

被災地の気仙沼ですべてを失われ、再び立ち上がられた愛隣印刷社で印刷され、松林兄妹が直接スイスへと持ち帰られた、本当に特別な記念誌は、落ち着いた上品な表紙には十字架のしるし、裏表紙は松林兄の教会を真ん中に描かれたリトグラフ、開けると写真がいっぱい。たくさんの笑顔が読み続けるのをうれしくしてくれます。すでにたくさんの兄弟姉妹のお顔が目につくではありませんか！

真ん中ごろからは、私たちの将来である子供たちのインタビュー、それに続くのは大切な若者たちのページ！それぞれのお証には、いっぱい教えられることがあります。

天のお父様とイエス様と聖霊様と共に歩ませていただいた20年間の道では、どれだけの祈りがささげられ、また涙も地に落ち、死んで地に落ちた一粒の麦となられた多くの兄弟姉妹の心がこもっているのですね。

この記念誌から、またスイス教会からいっぱい大切なことを学ばせていただいています。またこれからも学ばせてください。

記念誌「恵みの20年」の電子版は下のURLをクリックしてダウンロードすることによってご覧頂けます。

縮小版 (75MB)

[スイスJEG創立20周年記念誌 縮小版.pdf -Dropbox](#)

オリジナル版 (347MB)

[スイスJEG創立20周年記念誌 オリジナル版.pdf -Dropbox](#)